

## 大阪市立鯉江東小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

学校教育目標 仲良く 強く 正しい子どもの育成を図る

目指す子ども像

- ・ 仲良く 違いを認め合う子ども・異文化を尊重する子ども
- ・ 強く 自分の責任で選択し、判断し、表現する子ども
- ・ 正しく 正義を愛する子ども

目指す学校像

- ・ 子どもも教職員もいきいきと活動する学校
- ・ 学びにふさわしい環境の整った学校
- ・ 筋の通った秩序のある学校
- ・ 指導力を高める研修・研究活動の活発な学校
- ・ 尊敬と信頼のある穏やかな温かい学校

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

- 平成25年度「全国学力・学習状況調査」の結果、平均正答率は国語・算数ともに大阪市・全国を上回り、良好な結果が出ている。しかし、学習に対する好嫌では、国語科での肯定的な回答が大阪市・全国を下回る。論理的な言語活動に関する意識の面でも、抵抗感を感じている児童が多い。また、読書が好きな児童の割合も低い。
- 生活習慣では、起床・就寝の時刻が遅い児童が多い。
- 体力・運動能力に関しては、総合的な運動能力は、男女とも良好である。大阪市・全国平均を大きく上回る種目と下回る種目がある。瞬発的な筋力と持久力は優れている。一方、柔軟性と投げる力（男子）に課題が認められる。
- あいさつに関しては、数年来の取り組みの成果が表れ、意識が高まるとともに、日常的にもできる児童が増えてきている。
- 自尊感情や規範意識に関しては、一定の成果は上がっているものの、課題がまだ認められる。児童アンケートでは、多くの項目で肯定的な回答が高い数値をしめしている。しかし「はい」と積極的に答えている児童の割合が低い項目もある。
- 保護者アンケートの結果は、肯定的な回答が高い数値を示す項目が多い。ただし、児童アンケートと同様、積極的な回答の低い項目が認められる。生活習慣の改善に課題があると考えている。

**中期目標****【視点 学力の向上】**

- 平成28年度の全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の平均正答率を全国平均と同程度にする。 (カリキュラム改革関連)
- 平成27年度末の本校の学校生活アンケート調査で国語・算数の「授業の内容がわかる」と回答する児童の割合を毎年全学年で前年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)
- 平成27年度末の本校の保護者アンケート調査で「学力を定着させるような授業が行われている」と回答する保護者の割合を全学年で50%以上にする。 (マネジメント改革関連)

### 【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成 27 年度の本校の学校生活アンケート調査で、自尊感情や規範意識に関連する次の各項目について「当てはまる」と回答する児童の割合を平成 24 年度より 5 ポイント以上増加させる。
  - ・ 自分にはよいところがある。
  - ・ 宿題や勉強道具を忘れずに持ってきている。
  - ・ きまりや約束事を守っている。
  - ・ 進んであいさつをしている。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の本校の保護者アンケート調査で「集団意識を高めるとともに、豊かな心を持った子どもを育てようとしている」と回答する保護者の割合を全学年で 50 % 以上にする。(マネジメント改革関連)
- 平成 27 年度末の本校の学校生活アンケート調査で、「災害や事故・事件などから身を守るためにどのように行動したらよいかを知っている」と回答する児童の割合を 80 % 以上にする。(カリキュラム改革関連)

### 【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成 27 年度末の学校生活アンケート調査で「健康に気をつけている」の項目について、「(どちらかといえば) 当てはまる」と答える児童の割合を 80 % 以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の学校生活アンケート調査で「運動することが好き」の項目について毎年、「当てはまる」と答える児童の割合を 70 % 以上、「どちらかといえば当てはまる」と答える児童を合わせて 90 % 以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末までに、体力テストにおいて、特に課題のある長座体前屈とソフトボール投げの記録で大阪市平均を上回る。(カリキュラム改革関連)

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【視点 学力の向上】

- ① 本年度の学習理解度到達診断において、平均正答率を昨年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)
- ② 理由づけをして意見を述べたり書いたりできる児童の割合を 50 % 以上にする。(カリキュラム改革関連)
- ③ 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、国語・算数の授業の内容が「あまりわからない」「わからない」と回答する児童を昨年度より減少させる。(カリキュラム改革関連)
- ④ 本年度末の本校の保護者アンケート調査で「学力を定着させるような授業が行われている」と回答する保護者の割合を昨年度より向上させる。(マネジメント改革関連)
- ⑤ 本年度末の学校生活アンケート調査で、次の各項目について、肯定的な回答の割合を平成 25 年度より増加させる。
  - ・ 本を読むのが好き。
  - ・ 家でよく読書をする。(カリキュラム改革関連)

### 【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、自尊感情や規範意識に関連する次の各項目について「当てはまる」と回答する児童の割合を昨年度より増加させる。
  - ・ 自分にはよいところがある。
  - ・ 宿題や勉強道具を忘れずに持ってきている。
  - ・ きまりや約束事を守っている。
  - ・ あいさつをしている。(カリキュラム改革関連)
- ② 本年度末の本校の保護者アンケート調査で「集団意識を高めるとともに、豊かな心を持った子どもを育てようとしている」と回答する保護者の割合を昨年度より増加させる。  
(マネジメント改革関連)
- ③ 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、「災害や事故・事件などから身を守るためにどのように行動したらよいかを知っている」と回答する児童の割合を75%以上にする。  
(カリキュラム改革関連)

### 【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で健康に関する項目について、「(どちらかといえど) 当てはまる」と答える児童の割合を75%以上にする。  
(カリキュラム改革関連)
- ② 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で「運動することが好き」の項目について「当てはまる」が70%以上、「どちらかといえど当てはまる」を合わせた肯定的な回答の児童の割合が90%以上の現状を維持できるようにする。  
(カリキュラム改革関連)
- ③ 本年度の体力テストにおいて、特に課題のある長座体前屈とソフトボール投げの記録で前年度より上回る。  
(カリキュラム改革関連)

## 3 本年度の自己評価結果の総括

学校教育目標ならびにめざす子ども像・学校像をもとに「運営に関する計画」を策定し、学校運営に取り組んだ。年度目標の達成に向けた取り組み内容と指標を設定することで方向性を具体化し、教職員の共通理解を図ることができた。より客観的な評価をめざし、指標の工夫・改善に努めたが、まだ検討が必要な項目がある。多様な調査データを活用できるようにしていくことが必要である。また、意識調査は他の要因に左右されることがあるので、客観性を高めるためデータを併用する。なお、前年度よりよい数値を目標にするだけでなく、良好な項目については現状を維持していくことも大切な指標である。

視点ごとの総括は次の以下のとおりである。

### ○ 学力の向上

- ・ 教職員一丸となって研究・研修に取り組み、十分な成果をあげることができた。
- ・ 年間計画や組織的な取り組みにより、習熟度別少人数授業や特別支援教育を充実させることができた。児童一人一人にあった学習指導が行われている。
- ・ 学習理解度に関する客観的データがまだ整っていない。単元テスト・漢字や計算など小テストの正答率の分布、視写の速度の調査結果などから、基礎的な学力の定着や2極化傾向が緩和されていると考えられる。

- ・ 学習ノートやワークシートの記述から、理由づけして記述できる児童は半数に達しているにとらえている。ただし、進んでできるところまでには至っていない。
- ・ 意識調査の結果は、児童アンケート・保護者アンケートともに年度目標を達成することができた。
- ・ 読書については本年度の研究にあわせて、読書アンケートを実施した。前期に比べると後期は肯定的な数値が増えており、取り組みの成果が表れているといえる。

#### ○ 道徳心・社会性の育成

- ・ 計画した取り組みや行事は、すべて実施できた。
- ・ 自尊感情や規範意識に関する項目は、指標とした4項目のうち、3項目で肯定的な回答が昨年度と同程度または上回った。あいさつについては、数年来の取り組みで大きな変化がないことが、意識の高まりにつながりにくいのではないかと考える。
- ・ 保護者アンケートで「集団意識を高めるとともに、豊かな心を持った子どもを育てようとしている」に対して、「できていない」と回答した保護者は昨年度より減ったが、肯定的な回答の割合も昨年度よりわずかに下回った。よりきめ細かい指導に努めていく。
- ・ 地域・PTA・関係機関と連携し、防災・安全教育は確実に実施できた。毎年の積み重ねで意識化を図ることもできている。

#### ○ 健康・体力の保持・増進

- ・ 健康的な生活習慣は、昨年度に引き続き、ハンカチ・ティッシュの携帯に焦点化して取り組んだ。年度末の学校生活アンケートでも肯定的な回答が80%を超えた。とくに、「はい」と回答している児童の割合が大きく伸びた。食育も同様、栄養教諭による指導を日々の給食指導等で生かすことができた。両項目とも家庭への啓発が必要である。
- ・ 「運動することが好き」に関しては、学校生活アンケート調査結果では、指標とする数値を5ポイント程度下回った。外遊びに関して、積極的にしている児童が増えている一方で、していない割合も増えているので、2極化の傾向があるのではないかと考える。実態把握に努めたい。
- ・ 体育的活動は、体育科授業の充実と地域・PTAとの連携により、設定した目標に関しては成果をあげることができた。
- ・ 体力テストの結果は、ソフトボール投げでは男女ともに全国平均を上回ったが、柔軟性に課題が残った。成果が表れるのに時間を要する項目のため、継続的に指導する。また、「体力・運動能力調査」は全学年のデータがわかるので、来年度から比較・検討する場合のデータとして活用を検討する。